

GIGAスクール構想のもとでの 高等学校外国語科の指導について

GIGAスクール構想のもとでの高等学校外国語科の 指導においてICTを活用する際のポイント

1. 新学習指導要領（高等学校外国語）におけるICT活用の考え方

「第1款 目標」

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの**言語活動及びこれら結び付けた統合的な言語活動を通して**、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。（以下省略）

「3 指導計画の作成と内容の取扱い2（8）」

生徒が身に付けるべき資質・能力や生徒の実態、教材の内容などに応じて、視聴覚教材やコンピュータ、情報通信ネットワーク、教育機器などを有効活用し、**生徒の興味・関心をより高めるとともに**、英語による情報の発信に慣れさせるために、キーボードを使って英文を入力するなどの活動を効果的に取り入れることにより、**指導の効率化**や**言語活動の更なる充実**を図るようにすること。

2. 外国語教育におけるICT活用の主な利点

■ 言語活動の更なる充実

- ・英語話者との「本物のコミュニケーション」の機会の提供
- ・小規模校の生徒にとっての他校生徒や、学校規模を問わず日頃の授業では交流がない他学級の生徒等、多様な他者とのコミュニケーションの機会の提供
- ・電子メールやSNSを用いた実践的なやり取りの実現
- ・「聞くこと」や「読むこと」の言語活動におけるオーセンティックな教材の活用

■ 興味・関心の喚起と指導・評価の効率化

- ・やり取りや発表のモデル動画を共有フォルダに保存し、語彙や表現、話し方などを主体的に学ぶ機会の提供
- ・学習支援ソフトを利用して、児童生徒が各自作成した成果物を瞬時に共有・蓄積
- ・ブレインストームや英文作成などをICT端末を使って個別で行ったり協働で行ったりして、対話的に学ぶ機会の提供
- ・パフォーマンステスト等評価への活用
- ・遠隔地や海外の学校等との交流による多様な英語や異なる文化に触れる機会の促進

高等学校・外国語科・ディベート活動①

活動のねらい

身近な話題についてのディベートを通して、自分の考えを広げ、課題の解決に向けて考えを生かし合うために、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、意見や主張などを理由や根拠とともに話して伝え合うことができる。

ICT活用のポイント

- ・教師とALTによるディベート動画を共有フォルダに保存することで、何度でも見ることができ、伝え合うポイントを理解することができる。
- ・デジタルホワイトボードソフトの付箋機能を使うことで、論点の整理や主張のまとめを効率的に行うことができる。
- ・文書作成ソフトの共同編集機能を使うことで、個別に収集した情報や資料をもとに、協働で自分たちの意見や主張の正当性を高めることができる。

【第1時】

導入・ねらい（目標）の提示

デジタルホワイトボードソフトで
論点整理

文書作成ソフトの共同編集機能で
原稿作成

グループのメンバーや教師からの
フィードバック

事例の概要

○ディベートを動画で示し、ねらい（目標）を確認する

事前に撮影した教師とALTによるディベート動画を授業で見せるとともに、その後も必要に応じて視聴できるように、学習支援ソフトの共有フォルダに保存する。

○賛成または反対のグループ内で論点整理を行う

デジタルホワイトボードソフトの付箋機能を使って、課題に対する論点をグループ内で整理し、意見や主張を整理する（個別作業⇒協働作業）。

○アウトラインや原稿を作成する

文書作成ソフトを使用して個人で立論し、グループのメンバーによるコメントや教師からのフィードバックを参考に、根拠の質と量を高める。また、それを基に、グループで共同編集を行いながら立論していく（個別作業⇒協働作業）。

【第2時】

ディベート
（録画・振り返り・評価）

○ディベートを録画し、振り返りや評価に活用する

各ディベートを録画し、活動のねらいについての自己評価や相互評価に活用する。必要に応じて、教師は評価資料として活用することもできる。

高等学校・外国語科・ディベート活動②

～ICT端末を使った個別・協働による論点整理や立論の作成～

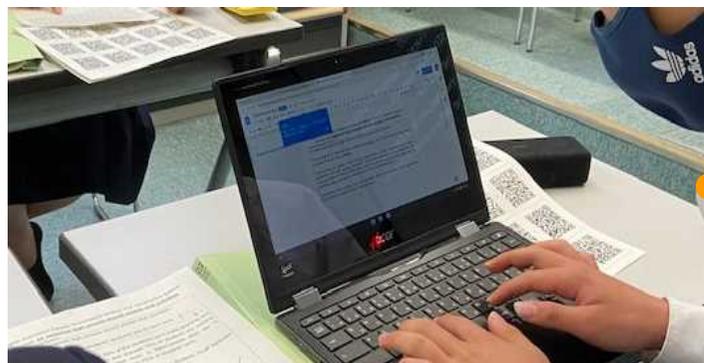
【教師とALTによるディベート動画を視聴している場面】



【論点整理をしている場面】



【意見や主張の正当性を協働で高めている場面】



「○○は廃止すべきか」という論題で賛成と反対の立場に分かれて、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、意見や主張などを理由や根拠とともに話して伝え合う活動

【ICT活用の具体】

導入で視聴させた教師とALTのディベートの動画を、学習支援ソフトの共有フォルダに保存する。

→必要に応じて生徒個人が繰り返し視聴し、発話の工夫（伝わりやすい発音や音量、速さや発言時の態度など）について理解を深めることができる。

デジタルホワイトボードソフトの付箋機能を使って、論点の整理や主張のまとめを行う。

→紙の付箋よりも効率的に行うことができるとともに、この後個別で立案する際に対話の過程を適宜各自で振り返ることができる。

インターネット等を活用しながら個別に収集した情報や資料をもとに、文書作成ソフトを用いて立論し、それを基に共同編集機能を用いてコメントし合う。

→ネットワーク環境で端末を活用することで、協働でグループの意見や主張の正当性を高めることができる。

○ 活用したソフトや機能

学習支援ソフトのファイル共有機能、文書作成ソフトの共同編集機能、デジタルホワイトボードソフトの付箋機能、動画撮影機能